

子供たちへの読み聞かせ活動と共に 高齢者の生涯学習のためにも活動。

やまむら ひでとし

山村 秀敏さん 久留米市 77歳



退職後にボランティア
を学び実践。

山村秀敏さんは、定年退職後、久留米市が主催する老人大学で学び、その後、ふくおか高齢者大学に入学しました。高齢者大学では、生涯学習ボランティアの考え方と実践を学びましたが、「絵本の読み聞かせ・子ども交流」を受講した際、子育て支援センターで実習の演技をしたところ、3歳の幼児が物語の中に入り込み、一緒に声を出すことがありました。その姿に感動した母親の「子供がこんなに熱中す

る姿を見たのは初めてです」との感想を聞き、山村さんは自分の絵本の読み聞かせに自信を持ち、読み聞かせを中心にして子供育成の手助けをしようと考えました。

高齢者大学在学中の平成13年に、大型紙芝居を中心とした伝承遊びなどを交えた「子供育成」・「高齢者との交流」等を実施。その後、生涯学習センターのボランティア育成講座等を経て、平成20年の1月には講座受講生の仲間と、子供の育成と高齢者間交流を目的としたサークル「エーサー子ども交流」を立ち上げました。

自ら率先して地域の活性化に貢献。

「エーサーピア子ども交流」は、スポーツ・音遊び・折り紙・絵本を使つての読み聞かせ・紙芝居・わらべ歌等で、子供との交流を楽しむ交流会を

実施。シニアカレッジなど生涯学習で学んだ知識、今までの経験を生かして、子供と触れ合つて、情操豊かな成長を願うことを目的として、同時に会員相互の親睦、研鑽を通じて地域福祉に貢献、奉仕するものです。

こうして山村さんは、地域からのボランティア要請に出来るだけでなく、自ら率先して地域の活性化に貢献しています。

現在、山村さんは、毎月2回の「おはなし会」を実施。その他、社協イベント、Fコープイベントなど年間40〜50回の子ども交流ボランティア活動を行っています。

さらに幅広く生涯学習と地域貢献を支援。

現在、約60団体で構成される生涯学習センター利用者の会の会長となり、団体間交流にとどまらず、地域間の交

流を視野に入れたサークル発表会や展示会の企画・実施を中心に行っている山村さん。

「今後は、生涯学習センターと協力して、校区「コミュニティセンター」や、合併後に久留米市となった旧4町校区に向いてイベント広報活動や『おはなし会』を実施したい」と抱負を語ります。

